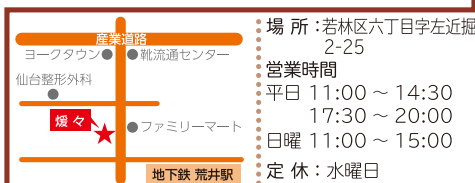


カムバックマイヒーロー



イラスト：佐藤



7月に仙台うみの杜水族館が開業 2 周年を迎え、360° 大パノラマプロジェクションマッピングという新イベントも始まりました。他にも幅14m、水深 7.5mの巨大水槽や、日本ではここを含め 3箇所で見ることのできない『イロワケイルカ』など、珍しいものが盛りだくさんです。



代表取締役
高橋 健一郎

ほぜにタカハン

御礼

前回のタカハン通信でエコキャップのお話をさせていただいたところ、予想以上の反響をいただき、多くの方がキャップを提供してくださり、ご協力を申し出ていただきました。

なんと4月6月の2ヶ月で7580個(18.95kg)ものキャップが集まり、弊社がいつも一年かけて集めている数を優に超える結果になりました。この数は約4.7人分のワクチンが購入できる計算になります。(今回の回収から16000個/1人分になりました)

集めてはいるけどどこへ持って行ったらいいかわからない、何かしたいけどどうすればいいかわからない、そんな方がたくさんいらっしゃることを、今回の新聞を通して知りました。「何かしたい」という思いを持っているのに、やり方が分からず行動に移すことができない。すごくもったいないことだと思いました。大したことではありませんが、今回のことで少し、そんな皆様の気持ちのお手伝い



▶ H 29 年 6 月 18 日撮影

文：佐藤

をさせていただくことができたのではないかと思います。

エコキャップだけではなく、そんな「何かしたい」「やってみたい」をお手伝いできるような、そんなお仕事がきたらなあ、と、ほんやりとですが感じました。

今後弊社はこの活動を続けていきたいと思っておりますので、またキャップ等、ご相談等ございましたらお声がけください。よろしくお願いたします。

ご協力、ありがとうございました！

まぜそば：600円(200g)～ ※100g増しごとに+100円
200gでも具沢山で濃いめの味なので満足度が高い。なにより安い。

仙台麺活 No.9 中華そば 燐々

東西線の開業と共に目覚ましい発展をみせている若林区荒井。「中華そば 燐々」は開通(二〇一五年十二月)から約半年後に荒井駅そばにオープンしたお店だ。この店の特徴は、メニューこそ「燐々」「燐々そば」とシンプルなもの、その一つ一つが特徴的なところだ。

燐々そばはまるで日本蕎麦のつゆの様な味で、強めの味ながらもついつい飲み干してしまう。

燐々そばは具出汁を使った東北では馴染みの薄い塩ラーメンで、まるで野菜スープのような味わい。

まぜそばはニンニクやニラを使ったはやりの台湾風ではなく、鯉おしの味が非常に効いた珍しい和風テイストのまぜそばに仕上がっている。

レモン風味の鳥チャーシューや穂先メンマなど具材にももちろん力を入れていて、麺にいたってはわざわざ東京の製麺所から仕入れる程のこだわりである。駐車場も少ない開発中の土地ながら、はやくも評判のラーメン屋に登り詰めたのも納得だ。

文：キウチ

仙台七夕の由来

江戸時代初期、仙台藩祖の伊達政宗が、婦女に対する文化向上の目的で七夕を奨励したため当地で盛んな年中行事の1つになったとの説がある仙台七夕。

維新の改革や第一次世界大戦による不景気の影響などから一度は全国的に衰退したものの、昭和2年に大町の商家の有志達が、不景気に抗おうと華やかな七夕飾りを町内中に飾りつけたのがきっかけでかつての華やかさを取り戻しました。翌年には他町も参加し通行整理が行われるほどの賑わいと呼び完全復活を果たします。ちなみに7月ではなく8月に行われるようになったのもこの年からだそうです。



©仙台七夕まつり協賛会

仙台七夕まつり 8月6日(日)～8月8日(火)

**飾り付け時間 8月6日(日)・8月7日(月) / 10:00頃～22:00頃(予定)
8月8日(火) / 10:00頃～21:00頃(予定)**

開催場所 仙台市中心部および周辺商店街

※仙台七夕まつり期間中は、七夕飾り掲出エリア周辺並びにおまつり広場をはじめとしたイベント会場周辺での小型無人飛行機(ドローン等)の使用は禁止です。

孟宗竹の再利用

竹はご存知の通り成長が早いイネ科の植物ですが大量に使用する用途がなく、貴重な資源を生かしきれていません。仙台七夕まつりに使用された孟宗竹も一部、竹細工などに使用されているものの大部分は焼却処分されているとお聞きしております。仙台七夕は竹の利用には大きく貢献しておりますが、再利用方法はほとんど検討されておりました。

竹紙 TAKEGAMI 〈仙台七夕竹紙プロジェクト〉

“手触りやさしく” “書き心地やさしく” そして何より環境にやさしい

そこで仙台文化である仙台七夕まつりに使用している宮城県産孟宗竹の再利用を行い、竹を回収し、竹紙原料の一部に使用する、仙台七夕竹紙プロジェクトが発足しました。

富山県に本社を置く製紙メーカーの協力により、平成24年度より、仙台七夕まつりで使用された孟宗竹を回収しています。

「竹紙」はまだまだ限られた生産量ですが、その独特な風合い、趣のある質感は多くの人を魅了し、更なる環境保全にもつながっていくでしょう。実は今回TAKAHAN通信で使用している紙も竹紙です。



※資料提供：鳴海屋紙商事株式会社様



この用紙には
仙台七夕まつりで使われた孟宗竹を
原料の一部として使用しております。